

寄稿 隠岐神社に捧げる短歌

御波 中野 勝枝

四月十四日は、清々しく「花と青空」のもと、麗らかなお祭り日和に恵まれました。私もお参りさせて頂き、厳かに、そして雅な雰囲気にと感動の時間(とき)を過ごさせていただきました。

後鳥羽天皇の歴史を海士町の文化遺産として、また、郷土の誇りとして、町民挙げて様々な形で崇敬の念を奉納されております。

長らく例祭には、可愛らしい巫女さんたちの舞を奉納されていましたが、今年は殊に「浜木綿の会」(はまゆうのかい/脇谷紀恵子代表)の六人の方々の素晴らしいお琴の音色に心の底から感動いたしました。

長らくの呈茶の方々を含めまして、離島でありながらも、日本古来の伝統美溢れます美しいお着物姿での振る舞いが後鳥羽の森に映え、そして、この光景と海士の文化のゆかしさに自負の思いと感動を次の四首に認めさせて頂きました。

隠岐神社春季例祭

(平成二十二年四月十四日、三首)

御内にて設えられしお茶室の
馥郁たるや衣ずれの音

陽光に緋の狩衣の悉く
踏む玉砂利にさくら舞い散る

箏曲の「さくらさくら」の
心みわたる
皇おわします御陵の森へ

隠岐神社御創建七十年式年大祭

(平成二十一年十月十八日)

うら若し四人の巫女の
はんなりと
納め奉る承久の舞い

隠岐神社にお参りして

※参拝の思い出帳より

初めて隠岐にきました。静かな、そしておだやかな空気が流れ、歴史をかんじています。

(埼玉より参拝)

家族で四島めぐりを楽しくして
いるうち神社にめぐり合い、お参り
させて頂きました。また機会があれば、
隠岐の島めぐりをしたいです。

(大阪より参拝)

編集後記

◆中野勝枝さんの寄稿を掲載しました。春祭りの雅を和歌に詠み込んだものです。御祭神も、和歌に親しむ町民の姿を御覧になり、とても喜ばれたと存じます。

◆六月六日、島前の神社関係者の総会に合わせ、神社本庁の木田教化部長が来島し、宇受賀命神社並びに隠岐神社を参拝。神職と総代が神社を護持する氏子の活動を説明しました。

◆島前の神社界の役員改選が行われ、村尾宮司が引き続き支部長を務めることとなりました。

◆神社界における村尾宮司の長年の功績に対し、神社本庁より表彰状が贈られました。

◆四月一日付で、村尾茂樹禰宜が、宇受賀命神社、北乃惣神社、東神社、奈伎良比賣神社の宮司に就任しました。

◆感想をお待ちしております。



回 覧

『隠岐神社社報』

第5号

隠岐神社の祭典、行事案内

6月・7月・8月・9月の4日

月次祭

神札・守札御霊入の儀



発行者 隠岐神社社務所

〒684-0403

島根県隠岐郡海士町海士 電話 08514-2-0464

故郷の祭り

隠岐神社宮司 村尾 周

常日頃、隠岐神社並びに各地区の氏神さまの護持に、格別のご理解とご協力を賜っておりますこと、まずもって御礼申し上げます。

七月は、四日の豊田地区・松島の月輪神社の例祭をはじめに、島内各地区の氏神さまのお祭りが行われました。中でも、菱浦の御倉神社は御旅（神幸祭）の年にあたり、例年に増して賑やかなお祭りとなりました。

さて、神社において最も大切なことは、神様に感謝するお祭りを継続してゆくことにあります。そして、神社のお祭りは神職の力のみでは完遂できず、地区の方の奉賛・協力が必要不可欠です。

各地区では神社総代、役員の方の方針のもとに、清掃や飾り付け、神楽や舞などの神賑行事の手配が

滞りなく行われて、お祭りの日を迎えます。

また、地区の皆さまは、それぞれの立場でお祭りに協力しながら、家庭でのお祭りの準備も進めます。神棚や仏壇の掃除、伝統的な料理を含めたお祝いの膳の用意など、神社を中心にして地区全体がお祭りの雰囲気につつまれてゆきます。

こうして迎える神社のお祭りには、いろいろな思い出があるのではないのでしょうか。暑い中、じつと座ってお祭りに参列したこと、

神楽の社中や御神輿の担ぎ手となったことを縁に付き合いがはじまったこと、せつかく準備をしたのに……など。お祭りには人それぞれの体験談がつきものです。

こうした体験を通じて地域間、世代間の交流の場となってきたのが、神社であります。その地区に関係ある人が、お祭りの思い出を共有していることこそ、生活環境の変化があっても神社が大切にされ、お祭りが継続されている原動力でもあります。

本年四月の隠岐神社の春祭りでは、地元の和琴同好会である浜木綿の会（代表 脇谷紀恵子）による琴の演奏が奉納されました。呈茶や献花もお祭りに華を添えました。また、地元ライオンズクラブの清掃奉仕もありました。

昨年、御創建七十年を迎えた隠岐神社も、海士町民の思い出に残る神社として、お祭りを中心とした更なる活動を展開してゆく所存です。



シリーズ 隱岐神社の由緒③

前回は、後鳥羽天皇が即位されるまでの武家勢力についてふれました。今回は、即位のことは見えてみましよう。

後鳥羽天皇の即位

第八十一代 安徳天皇は、実母が平清盛の娘であったことから、源氏の勢力が京の都に迫る中、平氏とともに西国へ向かわれます。

これにより、都に天皇さまがいらっしゃらないということになり、朝廷はたいへん混乱します。そこで、第七十九代の天皇であつて、当時大きな権力をもっていた後白河上皇は、京に残られた第三皇子と第四皇子のうち、どちらかを天皇に即位させることで事態の收拾を図ろうとします。

そして、天運を得、後白河上皇の勅命（ちよくめい／御決定）により即位されたのが、第四皇子、後鳥羽天皇です。なお、後白河上皇と皇子それぞれがお顔をあわせられた時、人を引き付けるお顔をされたのが第四皇子であつたこと

から皇位を授けられた、とする説もあります。

そして、後鳥羽天皇は、寿永二年（一一八三）に践祚（せんそ）／天皇の位を受け継ぐこと、翌年、元暦元年（一一八四）に即位（そくい／皇位を継承したことを内外に示す儀）されました。

ただ、異例なことに、先帝である安徳天皇が皇位と一体である三種の神器、八咫鏡（やたのかがみ）、天叢雲劍（あめのむらくものつるぎ）、八咫瓊勾玉（やさかにのまがたま）をお持ちになつておられたために、その受け継ぎがないままの即位となりました。

後鳥羽天皇は、このような皇位と国の混乱を御覧になつたことから、皇室の権威をまもるために、ことの他、古くからの儀式や文化・伝統を大切にされたのではないのでしょうか。

（つづく）

神社界の活動

皇室をうやまつ活動

日本国憲法の第一条には、「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴」であると記してあります。それゆえ、我が国の発展と平和を祈る祭祀、国事行為、御動静（日々のご活動）に関する報道は、適切な用語、表現を用いなければなりません。

しかし残念なことに、報道の中には、必要以上の敬語の省略や、興味本位で噂話や憶測に基づくものが多く見受けられます。これらは、日本や国民の権威に対する不敬な行為であり、私も一人一人の名誉を傷つけているとも言えるのではないのでしょうか。

神社界では、正しい皇室報道を求める活動の一環として、季刊誌『皇室』の購読運動を進めています。



宇受賀命神社での巫女舞の奉納

地域の神社をまもる活動

神社本庁では、平成二十一年度より、宇受賀命神社を神社活性化のモデルに指定しています。

さて宇受賀区では昨年七月のお祭りより、地元の女兒による巫女舞の奉納をはじめられています。第一代の巫女は、藤田真帆さん（小松屋）、柏原礼奈さん（向屋敷）、瀧川七海さん、吉山奈津子さんが務めました。

学校行事も忙しい中、本人の努力と保護者の協力の下に練習を重ね、みごとな舞が奉納できました。また、地区のお祭りに参列されなかった方のために、七月二十二日には保健福祉センター ひまわりにおいて、舞を披露しました。

子供たちがお祭りに参加することで、故郷の思い出と、役割を果たしたという自信をもつことは、神社をまもる、地域を元気にする力になると考えます。

神社
Q & A

Q 神職さんにも修行はあるのですか？

A 神職は資格を取得し、神社に奉職した後に、各自で時間をつくって研修を受けなければなりません。お祭りの作法や神社・神道に関する学問を修めるとともに、関係法規に則り、氏子地区の現状を踏まえてお祭りを意義深く行い、神社を守ってゆくための方法を、進んで研究しな



平成22年 島前支部研修

ければなりません。

二つした研修を積み、さらに実際の神社奉仕、神社界全体への貢献をすることによって、神社本庁より身分が授けられます。

神社本庁の包括下の神社に奉仕する神職の場合、わかりやすいのは袴（はかま）の色と模様です。これは、互いの功績に応じるものですから、その厳守が定められています。

ちなみに、隠岐神社の神職の場合、村尾宮司が二級上、村尾禰宜が三級です。

Q 神社の総代、役員には、どんな仕事があるの？

A 神社を維持し、お祭りを執り行うためには、地域の人の協力が欠かせません。そこで、地域の先頭に立って、神職を助けるのが総代、役員です。

何事も神職とよく相談をし、地区や崇敬者の代表であるとの

自覚を持って、神さまの御神徳をひろめる、大切な役目です。



春季例祭の前に境内清掃をされる崇敬者

後鳥羽院資料館からのお知らせ

後鳥羽天皇に関わる資料を展示している当館を、海士町民の方は無料にて見学できます。夏期休暇等で帰郷されている家族・親戚、友人等とお誘いあわせの上、ご来館ください。

なお、観光協会では、隠岐の個人旅行を楽しむよう、関係施設や交通機関の優待を特典としたパスポートを発行しています。

隠岐神社のことを
伝えましょう

後鳥羽天皇と海士町民をつなぐ隠岐神社には、毎年、たくさんの方の観光の方もお参りされます。

町民のみならず、ぜひ後鳥羽天皇の御事蹟（ごじせき／ご活躍）について関心を持っていただきたいことから、神社では無料の由緒書をお渡ししております。

隠岐神社は後鳥羽天皇を称える所、一方の御火葬塚は後鳥羽天皇の御陵に準ずる所です。それぞれの解説もありますので、ぜひ一読の上、ご紹介ください。



健康成就、
学業成就、縁
結び、厄除け、
商売繁盛など
の御祈禱は、
各地区の氏神
さま、または
隠岐神社で行
うのが本来の
形です。